



## 入学・進学

小学校6年生の時の担任の先生が、新設された学校が進学校を目指しているらしいので、中学を受験してみては、と私の親に勧めてくださいました。本当に進学校になるかもわからない時期だったのですが、見学に行ったところ、赤い絨毯がすごくきれいで、こんな学校に通えたらいいな、って思って、あこがれて、受験を決めました。私は中等部の2期生なので、入学した時はまだ学年もそろっておらず、でも校舎の完成間もない頃だったので、新しく、とてもきれいでした。そんな頃だったので、まだ校歌はできておりません、奈良の智辯学園の校歌で歌詞の一部を変えて歌っていましたね。ちなみに今の校歌ができるのは、私が中4の頃でしたかね？私が学生の頃は、藤田清司理事長先生は生物の先生で、授業は、冒頭にいつも雑談があり、それが長引くことが結構あって、楽しかったです。今もペンギンのおしくらまんじゅうの話はよく覚えています。そのおかげもあってか（笑）、理系を選択し、大学は理学部生物学科に進みました。

## 就職 そして転職

大学では、酵素化学を専攻しました。具体的には糖を分解する酵素を、モノクローナル抗体を利用して精製すること、酵素が最も効率的に働くにはどのような条件が適当なのか、そういう研究をしました。就職しても研究職につきたくて、研究所を併設している会社に就職しました。でも就職後に会社の部署改変があって、異動で商品開発や秘書的な仕事も担当するようになりました。そんな折、和歌山県庁を勧めてくれる方がいらっしゃって、研究できないのであれば、文系の仕事でも一緒に、って思って採用試験を受験しました。それで、4年間勤めた会社を退職し、和歌山県に入庁することになりました。入庁してからは、東京事務所とテクノ振興財団（現わかやま産業振興財団）に異動したことを除いて本庁の部署を転々としてきました。前々職が広報課長だったのですが、この職が一番印象深かったです。コロナ対応の記者会見もありましたし、ちょうど知事が変わるタイミングをこのポストにいましたので、庁内の雰囲気も変わっていくのを最前線で感じることができました。それにいろんな情報が入ってきますし、広報番組の知事との対談で著名な方と会う機会もありました。今は企画部で、主に新総合計画の策定に取り組んでいます。すでに検討は進められてきたのですが、岸本知事のご逝去を受けて知事が交代しましたので、新知事の方針を確認しながら策定を再開することになります。将来にわたって、どんな和歌山県を作っていくのか、どのような方向に向かって仕事をしていくのか、そのようなことをまとめたいと思っています。企画部では計画のほかにも文化振興やスポーツ振興、国際交流といった分野の仕事もあります。企画部長となっていろんなイベントや行事に県の代表として出席する機会が多くなりました。多くの人とお会いするのですが、名前と顔を覚えるのが苦手で、なかなか苦労しています。

写真がない！



学生時代の写真が見当たらないです。何回か引っ越ししたので、その際になくしてしまったと思います。和歌祭に参加している時や万博なんかの最近の写真ならありますか、当時の昔の写真がないです。

## 智辯会

私は運がいいのかもしれません。手相も運をつかむ大物政治家や大物芸能人と同じだそうで（笑）

和歌山県庁には、智辯学園和歌山高等学校卒業生を中心とした「県庁智辯会」があります。もう15年以上前になりますが、高等部2期生の先輩の職員と同じ課に在職していた時に、そこに一つ下の卒業生の職員がたまに遊びに来していました。当時は県庁内にいくつか高校のOB会が存在していたので、「県庁内に智辯の卒業生の会を作ったらどうかなあ。」って二人に提案しました。二人からは「ムリ」という素っ気ない返事があり、聞くと1995年（平成7年）頃に一度立ち上げを計画したもの、あまり機運が盛り上がりらずに頓挫した経緯があったそうです。それでも「今なら作れるよ」としつこく言っていた結果、2009年（平成21年）に発足させることができました。この時に動いてくれた人、協力してくれた人たちに感謝です。これも私の運がいいのひとつなのかもしれませんね。以後、コロナ禍を除いて毎年先生方の出席をいただいて、懇親会を開催しています。今では会員数が、奈良の智辯学園卒業生約30名を含め、200名近くの数となっています。後輩となる職員たちは皆、優秀で今後も和歌山県を支える人材として活躍していくものと期待しています。引き続き毎年1回つながりを深めていければいいなあと思っています。



## 学生時代

すごくおとなしかったと思います。まじめな、目立たない学生だったと思っています。クラブは、バスケットボール部と茶華道部に入部していました。おとなしい、目立たない、と言いましたが、1年だけ、なぜかチアもやりました、その頃は、今のように甲子園の常連ではなく、紀三井寺の県予選だけで、チアをやりたいっていう子が少ない頃だったので、頼まれてだったと思います。応援団の誰かが言い出して、同じ学年の女子たちがチアに参加したといった流れだったと記憶しています。チアをやった時にどっちだったかはっきり覚えていませんが、野球部のアンダーシャツが昔は赤色ではなく紫だったのを覚えています。少しずつ強くなって、高校を卒業した時の春のセンバツで初めて甲子園に出場したのですが、その時は応援を行ったと記憶しています。



## 最近入部

学生の頃、茶華道部に入部していたのですが、和歌山県庁にも茶道部があつて、つい最近入部しました。



でも、学校の茶道部は裏千家に対して和歌山県庁の茶道部は表千家なので、作法が少しずつ違っていて、少々苦労しています。裏千家の茶道を学んでいたのは学校だけなので随分前なのですが、不思議なことに身体が覚えていて自然と間違えてしまって、「違うよ！」って言われて、「あ、すみません。」って気付くっていう感じです。学校では、華道もやっていましたが作品の写真は残っていません。その頃は、まだカメラがないと写真は撮れない時代で、しかもフィルムなので。今だとデジタルで残せるし、スマホで撮れたりするので、気軽に写真が残せます。

## 思い出

これといった思い出は、やはり修学旅行かな？初めての海外旅行で、韓国だったのですが、プサン行きの船に乗って、船酔いして大変だったという記憶があります。それだとあまりいい思い出ではないですね（笑）。当時は、ソウルでは白バイが先導してくれていたんですよ。そんなこと、普通ないですよね。数年後からはなくなったようですが、めったに経験できないことだったので、それはいい思い出かもしれません。普段の学校の行き帰りは、まじめだったので、寄り道もせず、帰っていましたよ（笑）



## 智辯生のみなさまへ

具体的なアドバイスは思い浮かばないのですが、後悔をしないように、何にでもチャレンジしてもらったら、いいと思います。

あとからみると、私は幸運には恵まれているのでしょうか。その時々。上司や同僚、部下もそうですし、周りで誰かが支えてくれました。一人二人っていう感じではなく、

一緒だった人たちが、必ず助けてくれる。そういう人たちに巡り合ってきたように思います。

多分、誰もが多少の違いはありますが、周りに助けられてきたと思います。関わった方々に「感謝！」を忘れないようにしたいですね。